

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 11 No 07

120号

平成15年 7月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

医学生の実習

院長

東北大学の医学部の学生さんが、クリニック実習に来ているのを知っていますか。今回は、この医学生の実習について書いてみます。

突然ですが、先日、日本小児救急医学会に出席してきました。学会にはシンポジウムというのがあり、一つの話題に対して何人かで発表し、発表後会場の人たちとディスカッションするものです。今回は「小児救急医療と卒前卒後の教育」というテーマで、「卒前教育におけるクリニックの役割」を発表してきました。発表の要旨を簡単に説明します。「小児の救急医療に対しては、クリニック実習が直接的な貢献は出来ない。しかし、学生実習を通して小児医療への理解を深め、興味を持ってもらえれば、小児科を希望する学生が増えるかも知れない。小児科医が増える事により、小児救急医療に間接的に貢献できる可能性がある」と発表しました。御存じのように小児医療の問題がマスコミで、時々取り上げられています。取り上げられる度に、小児医療の危機が伝えられます。危機の理由のひとつは小児科医の不足で、実際には小児科医になろうとしている学生が年々減少しているのが現実です。また小児科医の過酷な労働と少子化などの将来への不安が強調されることも、小児科希望へ悪影響を与えているかもしれません。

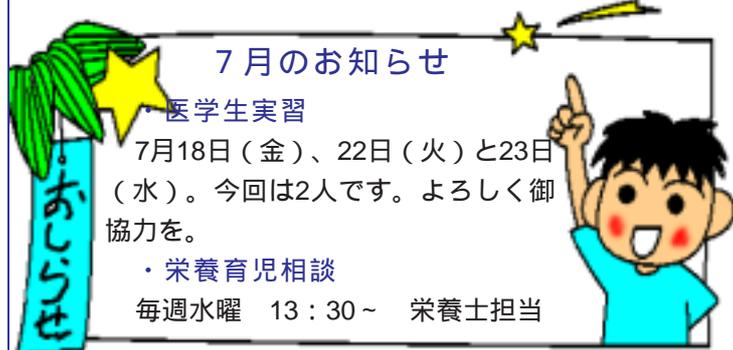
新聞を見ていると、読者の欄に時々医師に対する不満や不信の投書が載ります。「思いやりない診療に恐怖感」（河北新報）など、注意してみると結構多いものです。このような投書が全て事実とは限りませんが、患者さんがそのような思いを持ったという事実は確かです。医師と患者さんの間には、様々なギャップが存在します。インターネットの医療相談のアンケートでは、約半数の相談者は「説明してもらったが不安や心配が取れなかった」ことを相談の理由としていました。このようなギャップを少しでも少なくする方法は、コミュニケーションであるとことは確かです。近年、医学生教育でもコミュニケーションが重

要視され、教育にも取り入れられるようになってきました。コミュニケーションを学ぶ教育方法としては、模擬診察などがあります。しかし、模擬患者さんの前での実習が、



どれだけ効果があがるのかちょっと疑問です。当院の理念が、「お母さんの不安・心配の解消」である事を御存じだと思います。不安や心配の解消のためには、コミュニケーションが重要であり、そのための様々な試みを行っています。学生実習では医療におけるコミュニケーションの重要性や患者さんの気持ちを理解する大切さを伝えることが出来ればと思っています。自分を良い医師と言えるものではありませんが、医師というものを考えてみる一つのきっかけになればと思っています。医学生を受け入れているのは、必ずしも小児科医を増やす事だけが目的ではなく、医師として必要な何かを見てもらうことが大きな目的になっているのです。そしてクリニックでも、良い医師作りのためのお手伝いをしていることも知って欲しいことのひとつです。興味のある方は、ホームページの「学生実習」をご覧ください。このコーナーでは学生実習の目的から始まり、実習の内容をムービーで見ることが出来ます。

学生実習は、実は東北大学だけではありません。東北大学以外からも、是非このクリニックで実習したいという学生さんも受け入れています。このような実習の希望は、我々にとってとても有り難いことだと思っています。最後に学生実習に関してのお願いがあります。院長の診察後にもう一度診察させてもらったり、点滴などの介助をさせてもらったりしています。また1~2ヶ月健診では、是非「抱っこ」を経験させてあげてください。「赤ちゃんは不思議な力を赤ちゃんは持っているのです。」、そう説明しながら抱っこしてもらっています。これは学生さん達に非常に好評です。落としたりしないように十分な注意を払うつもりです。そばで見ていると心配かもしれませんが、学生さんの表情の動きも注意してみてください。一人の良い医師を育てるお手伝いということで、いろいろ御迷惑をおかけすることもあります。よく御協力をお願いします。そして出来れば、医師に対する期待、患者さんの思いを伝えるだけでなく、温かい言葉をかけてもらえれば幸いです。



7月のお知らせ

- ・医学生実習

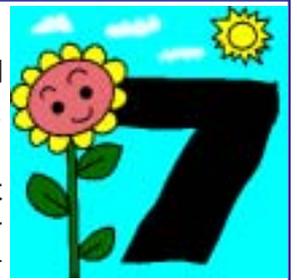
7月18日(金)、22日(火)と23日(水)。今回は2人です。よろしく御協力を。

- ・栄養育児相談

毎週水曜 13:30~ 栄養士担当

読者の広場

先月は25通のメールを頂きました。一つ目は、宮城野区の毛利さんから、東北放送のラジオを聴いた感想です。「今日初めて、先生出演のラジオを聞きました！ 昨日も聞いた、聞き慣れた美声が流れてきて不思議な気分でした。たった十分あまりで、SARS、夏かぜ、食中毒と盛り沢山でしたが、全部分かりやすかったです。来月も、もちろん聞きます！ お母さんクラブへのメールを新聞に掲載との件については、文章が下手なわけではありませんが、参加者が増えるのに役立つならば使ってください。あんな有意義な講義ですから、多くのお母さん方に聞かせてあげたいです。それでは、多忙な毎日でしょうが、御自愛下さい。このメールへの返事のための時間は、先生の睡眠時間にあてて下さい。来週も伺う予定です。宜しくおねがいします。」。実際喋っているほうは、うまくいったのかどうか、なかなかわかりません。やっぱり気になるものです。このような反応を頂けることが、本当に嬉しいことです。続いては6月号の「怒ると叱る」に対する感想を、青葉区の北野さんから頂きました。字数制限のある携帯から、3回に分けて送っていただきました。その分お母さんの思いが強く伝わってきます。「昨日は診察していただきありがとうございました。メールも久々です。頂いたクリニックNEWSを読んで何か凄く響いてきました。現在、第二子を妊娠中で切迫流産の為病休中。楓とやっときちんと向き合える状態になりました。悪阻もひどく、一時期は寝込んでいる私を「いやいや、あっち！」と拒み、落ち込んだりしてました。その分お父さんにべったりで、旦那は勝ち誇った顔をしてました(笑)。話は戻って、『叱る・怒る』はよく自分の中で議論します。仕事中はこんな私も一応「プロ」として感情で動かないようにしています。でも、仕事でも私の未熟な部分がでてしまい、感情が先走ってしまう事もあるのが実態。母親となれば...と思っていたのに、逆に我が子可愛さに叱れないことしばしば。なんてヒドイ『プロ』。保育の仕事をしていると、いつも頭の中で回りくどく叱る事について「叩くという事」、「声を荒げる事」などお母さんは家庭でどうしてるかな？その意味は子どもに伝わったかな？子どもは何を求めていたかな？と考えてました。偉そうに考えていたわりに、自分の母親としての姿は??無我夢中です。先生の文章を読んで、久々に初心に帰るというか、何とも言えない反省と衝撃。肩書きに「児童なんとか」が付かなくてもこんなに深く子育てについて考えを持っている！ということにも驚きました。(悪い意味にとらないでください。)まとまらない文章ですが、なぜかすごくスーッとした感じです。無理にしつけをしたり、叱ったりしなくても他の方法もあるのかなと発想を変えられました。親にしかできない責任を果たしていけるよう、まずは私から成長したいです！長々とすみませんでした。相変わらずお忙しそうですが、お体に気を付けて。」。「怒ると叱る」の解釈は、これが正しいとは思っていませんが、考え方は伝えることが出来たと、少し安心しています。記事で、ふと気が付くことがあった。それが新聞の目的のひとつです。今月もたくさんのメール、ありがとうございました。

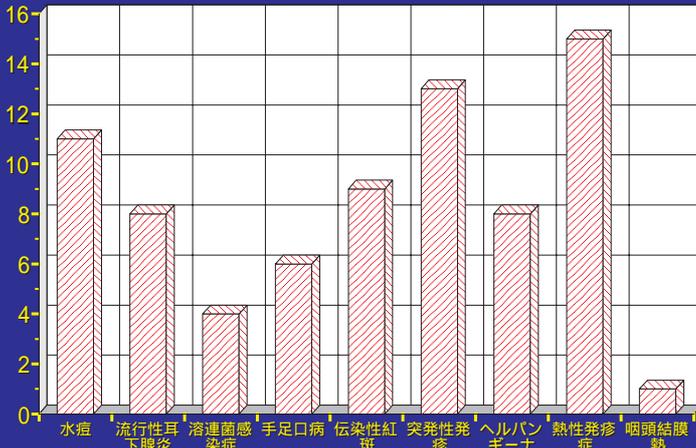


以前からこの紙面で紹介していた**プロモーションビデオ**が完成しました。待合室で流す予定です。プロモーションビデオというものを個人で作るとなると、百万単位のお金がかかるのだそうです。聞いてびっくりしました。実は田辺製薬制作による、医院の紹介ビデオです。「**患者さんに選ばれる病医院**」という題で、様々な努力をしている病院を選んだようです。院内報やHP、お母さんクラブや患者さん専用アドレスなどの紹介とインタビューが10数分にまとめられています。



先月から、感染症のグラフも夏らしくなりました。手足口病だけでなく、ヘルパンギーナや咽頭結膜熱(プール熱)などのいわゆる夏かぜが増えています。咽頭結膜熱は今年は流行するという予想もあります。文字通り高熱とどの痛み、目やにが特徴です。伝染性紅斑(リンゴ病)は増加傾向ですが、水痘、おたふく、溶連菌感染症は減少傾向のようです。

6月の感染症の集計



ラジオ番組と情報紙の紹介

東北放送ラジオ **ボリュームワイド**

毎月第一木曜日 13:30~13:40 ぐらしのめあて

リビング仙台 **ウエルネス通信**

毎月第一土曜日で、子どもの健康を担当。読者からの質問にお答えするコーナー。

月刊ママゴン **名医が語る** **お母さんへの手紙**

愛知県の豊橋市で配付されている育児情報誌。お母さんへの手紙というコーナーをしばらくの間担当予定。なぜ愛知県??。

編集後記

先月は学会の準備のため、忙しかっただけでなく、休日当番とほとんどの日曜日がつぶれてしまいました。ここのところ、大きな混雑もなく少し余裕ができました。夏休みを楽しみにして、もう一頑張りします。看護婦の佐藤君が産休に入り、御迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお願ひします。

